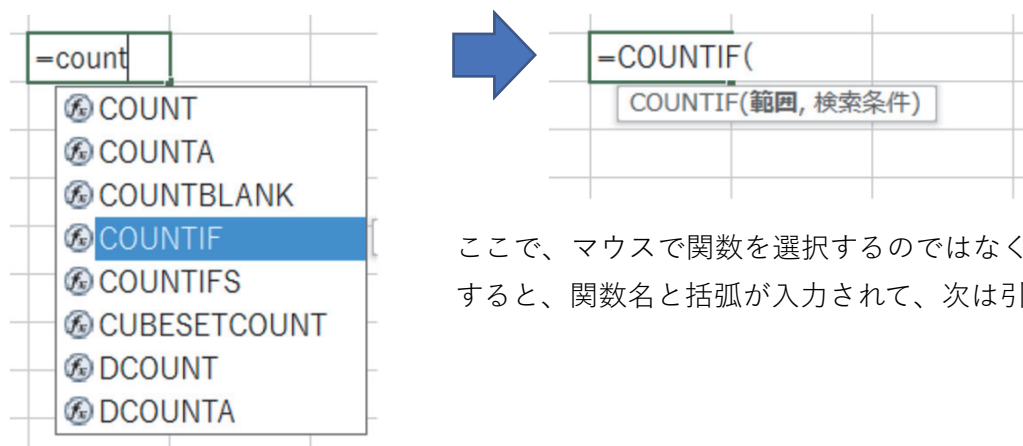


COUNTIF関数を例にして

関数の最初の数文字がわかれば関数は、簡単に選択できるので、数式バーの左にあるfxのボタンを使う必要もない。

イコールを入れて

=countまでタイプしたら、「カーソル（矢印）」キーでCOUNTIFまで下げて、



ここで、マウスで関数を選択するのではなく、「Tab」キーを押す。
すると、関数名と括弧が入力されて、次は引数を入力すればよい状態になる。

(このあとは、マウスで範囲指定しても、セルの番地をタイプしてもよいが、そうするのではなく、)

この状態で「カーソル」キーを押すと、範囲指定できる状態になるので、

「カーソル」キーで、指定したい範囲のセルまで移動してから、「Shift」キーを押しながら、カーソルキーで範囲を指定し（テキストp.118）、
引数の区切りのコンマ (,) を入力する。

すると、次の引数を指定できるので、同じようにカーソルキーで、指定したい範囲のセルまで移動して、あとは「Enter」キー。

これで、マウス入らず。

ポイント：「カーソル」キーで目的の関数までたどりついたら、「Tab」キーで選択のあとも、「カーソル」キーを押して範囲指定（引数指定）へ。